

# 郷土撰津 いにしえ通信

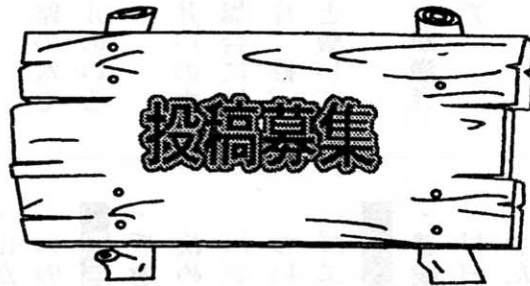
平成十一年三月一日 第十二号  
発行

撰津市三島一丁目一番一号  
撰津市教育委員会  
生涯学習部 生涯学習課

郷土撰津いにしえ通信では、読者により、わかりやすく楽しい紙面づくりを目指しています。そのため、十二号より、市民の方々の投稿欄を新たに設けます。これからも本通信をご愛読のほどよろしくお願い申し上げます。



※送付先は、撰津市教育委員会生涯学習課まで直接又は、ご郵送ください。



- ご意見ご感想
- 伝えておきたい昔の生活
- 今でも伝わる風習
- 印象に残った講演会・展示
- 歴史にかかわる紀行文・随想
- 行事やイベントに参加した感想
- 昔の生活や文化にかかわることならテーマ・ジャンルは問いません。日頃気にかかると一言をお気軽に投稿ください。



大阪府内で開催される展示・講演会・シンポジウムなどの情報をいち早く、お知らせします。

## 吹田市歴史講演会

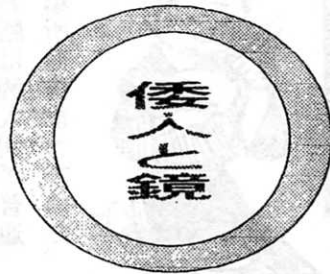
とき 三月二十日(土)

午後一時から四時

ところ 吹田市立博物館講座室

定員 一二〇名(先着順)

※参加費無料



講師 大阪大学文学部助教授 福永伸哉氏

◎吹田市立博物館職員による

市内の埋蔵文化財発掘調査の近況報告もあります。

☎〇六一六三三八一五五〇〇

## 古代日本の宮殿

「家屋文鏡が語る」

とき 三月十三日(土)

午後一時から四時

ところ 大阪府立中央図書館

ライティールホール

(近鉄東大阪線・地下鉄中央線)

「荒本」駅下車北西徒歩五分

定員 三五〇名(先着順)

費用 五〇〇円(資料代)

内容

第一部 基調講演

第二部 対談

「弥生文化の源流を探る」

申込方法

ハガキ又はファクシミリにて、1.住所2.氏名3.年令

4.電話番号5.人数をご記入の上

「セミナー申込み」と明記して

左記まで、お送りください。

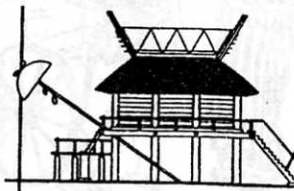
日本民家集落博物館

豊中市服部緑地一―二

☎〇六一六八六二一三二三七

FAX 〇六一六八六二一三一四七

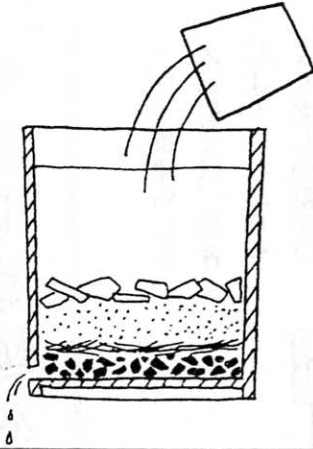
※締切は三月十一日当日必着



おじいさん・おばあさんに聞きました  
 振津市域 ちりよつと昔のくらし  
 その十一 日常の暮らしあれこれ

**生活用水**

- ・風呂や洗い物は水路の水で十分だった。ホタルのいるきれいな水だった。
- ・飲料水は主として井戸の水で、カナケがある場合には壺の上から瓦の破片、砂、シユロの毛、木炭と敷いてこして飲んだ。
- ・千里丘方面では、泉が湧きだすところもあった。



**カマドと燃料**

- ・作り付けのヘツツイでご飯やオカズを炊く。

**風呂**

- ・山が遠く薪が手に入りにくいので、燃料はワラが中心
- ・近所で風呂を沸かす順番を決めて、お互いにもらい風呂をすることが多かった。
- ・ついでに世間話を楽しんだ。ゴエモン風呂だった。

**食べ物**

- ・普段は麦飯で、ハレの日だけ白いご飯を炊く家が多かった。
- ・オカズは自分の家で採れる野菜が中心。川で獲れるフナ、モロコ、ハス、エビなどの雑魚と豆を煮たジャコマメもよく食べた。シジミやドブ貝もよくとれた。
- ・肉や海の魚はめつたに食べられなかった。
- ・どこの家でもミソを作った。ごちそうといえば決まって

カシワのスキヤキとなる。家で飼っている鶏をしめてさばく。

- ・オヤツは寒（カン）に大量についた餅で作ったアラレやオカキが多かった。
- ・お膳は個人別が普通。座る場所も決まっていた。



**服装とはきもの**

- ・以前はみんな着物とゾウリ。
- ・子どもの通学の服装が洋服と靴に変わっていったのは昭和の初めころから。

**ごみ**

- ・生ごみは屋敷地の決まった場所に埋めた。ミミズが繁殖してよい肥料となった。
- ・燃えるごみはみんな燃やす。だから、残ってしまうごみはほとんど無かった。

**買物と行商**

- ・近くに商店は少なく、買い物に出かける場合は吹田、

茨木、天六など遠くまで行った。

- ・行商がよく来た。魚屋、豆腐屋、乾物屋、薬屋などいろいろ来た。
- ・商店は現金売り、行商は年二度払いの掛け売りが多かった。



**病氣と医者**

- ・昭和三年に正雀駅ができて初めて駅前には医者が開業した。
- ・それまでは市域に医者はなく、岸辺や山田、茨木、江口などから呼んだ。

さし絵  
 下の二つは「続浪花風俗図  
 絵」杉本書店より

担当 (源)

# 郷土史コーナー

## 織田有楽斎と味舌

味舌と織田有楽斎、その子孫とは深い関係があります。まず、織田有楽斎とは、どんな人物であったかを述べていきます。

織田有楽斎は、信秀の第十一子で、天文十六年（一五四七年）に生まれています。信長とは十三歳違いの弟でした。通称は源吾、名は長益といい剃髪して如庵・有楽斎と称しています。幼い頃、源吾は、信秀の重臣平手政秀にかわいがられました。政秀は茶の湯の名人とされていますので源吾は政秀から平手流茶の湯の手ほどきを受けていたかもしれせん。

天正十年（一五八二年）、本能寺の変で信長が明智光秀に殺されたのを知るや、尾張・三河に逃れました。後に、

豊臣秀吉にお伽衆として仕えました。そして、秀吉から味舌（坪井村、上村、庄屋村、下村）二千石を与えられました。その当時の味舌は、宇治・醍醐・坂本などは、茶の産地として知られていました。

長益はよく味舌の館（味舌下の馬場定八屋敷）に通ったと思われまます。慶長五年（一六〇〇年）関ヶ原の戦いには、徳川方に属し、家臣の千賀又蔵が石田三成の軍將横山喜内を討ち取った功により、本領を安堵し、別に大和国山辺郡のうちにおいて新恩を加えられました。合わせて三万石の大名に家康から取り立てられました。

慶長十九年冬の陣に際し、長益の立場は微妙な立場にありました。淀君の叔父ということ、大坂城に招かれました。かねてから家康と通じて

いた長益は、平和解決を望む穏健派でしたので、主戦派を押しさえされず、かえって盟主にまつりあげられました。しかし、和議が起こると、その成立に率先して大いに努力しました。講和が成立してまもなく、大坂を出て、京・堺辺りと引きこもりました。夏の陣にはもはや加わることもなく、京の東山に隠居して動きませんでした。豊臣氏が滅び、大坂城に籠城しなくとも、豊臣方と見られた者は領地・家屋敷を取り上げられました。

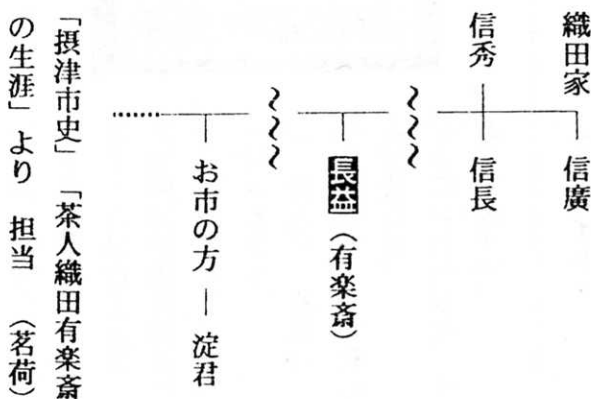
長益は秀頼の身内でありその運命は危ぶまれました。そこで所領の三万石を三分して、四男長政に味舌と大和国で一萬石、五男尚長に大和国一萬石、残る所領大和国一萬石は京都建仁寺に籠もる隠居料としました。これは徳川氏に対する釈明の意味をこめたものであろうと考えられます。

元和三年（一六一七年）、建仁寺内の荒廃していた塔頭正伝院を再興し、隠居所を設

けました。また、「如庵」という茶室も設けました。

元和七年十二月十三日に建仁寺で七十五歳の生涯を終えました。領地は幕府に収公されました。

※東京都千代田区の有楽町はかつて有楽が与えられた屋敷があつたために起こった町名であると言われています。また、有楽屋敷内に数寄屋（茶室）を建てて、客をもてなした場所が現在の数寄屋橋と言われています。





# 考古雑話

第十一回

## わかりつつある縄文時代の生活

### 三内丸山遺跡の発掘と縄文時代の生活

#### 摂津市域出土の縄文土器

摂津市域では、本通信・第二号で写真を一部紹介しましたが、鳥飼西地区淀川河床出土の縄文土器が知られていきます。これらの土器は昭和四十九年、淀川浚渫工事にもなう採集遺物で出土状況など、詳細は不明なところがあります。現在確認されている資料は縄文時代後期（一点）と晩期（三点）です。

晩期の土器は、滋賀里式土器（Ⅰ式・Ⅱ式）という型式に属するものと思われ、かたちは、小片なので限定はできませんが、煮炊きに用いた浅鉢や深鉢だと思われます。

近年、市域において調査を実施しておりますが、この時代の生活痕跡は確認されていません。一般的に摂津市に限

らず府内全般において縄文時代の土器や石器は散発的に発見される程度です。そういう意味では、貴重と言えます。

今後の調査によっては、市域の淀川縁辺部にも当時の生活の場が見つかるかも知れません。

#### 三島地方の縄文遺跡

摂津市周辺の縄文時代の遺跡について紹介します。

**柱本遺跡** 高槻市柱本の淀川河床に所在します。この遺跡も昭和四十六年の浚渫工事の際に発見されました。

前期から晩期にかけての深鉢を中心とした良好な資料が採集されています。近接する位置に柱本南遺跡があり、その一部が摂津市域の鳥飼上に含まれており、埋蔵文化財包蔵地として周知されています。

#### 研究会開催のお知らせ

### 第38回大阪府埋蔵文化財研究会

日時：3月6日（土）午前10時～4時半

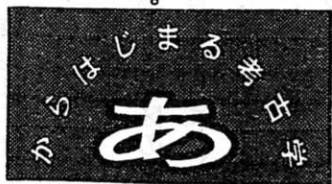
会場：大阪府教育委員会文化財調査事務所

#### 中世の集落 と 耕地開発を考える

- 今回の研究会では、府下遺跡事例発表・講演会・討論など集落と耕地開発の相関関係について白熱した議論が期待されます。
- 一般入場・聴講可
- 参加無料・資料代のみ実費負担。
- お問い合わせは、生涯学習課まで。

#### 【さ】 サヌカイト

○たたくと金属性の音を発する黒色で緻密な岩石。讃岐石ともいい香川県屋島地方に露出して産出します。○大阪府



・奈良 県を境にする  
火山噴 二上山  
ヌカイ 出のサ  
名です。 トも著  
器時代 ○旧石  
国府型 には、  
として ナイフ  
使用されます。盛んに  
このナイフ形  
石器は瀬戸内海沿岸を特徴として、瀬戸内海沿岸を中心として九州から近畿地方にまで分布します。

○第十二号からは、稲作と水田経営を中心に弥生文化の実態に迫ります。 担当（伊部）

参考文献 摂津市史料編一  
高槻市文化財年報・一九八九  
摂津市文化財資料・第十八号  
耳原遺跡発掘調査概報

◎第十二号からは、稲作と水田経営を中心に弥生文化の実態に迫ります。

#### 【目原遺跡】

茨木市のほぼ中央の炭木川と安威川にはさまれた台地の上に立地します。

昭和五十四年に本格的な調査が実施され、三島地方ではじめてまとまった遺構（生活の痕跡）が確認されました。発見された遺構は、おもに縄文時代晩期の甕棺墓群です。